

●尿検査の結果を配付しました。

二次検査の結果を配布しました。何も通知のなかった人は「異常なし」です。
二次検査の結果、受診が必要な人は、できるだけ早めに受診してください。

●内科検診の結果をお知らせしました。

内科検診にて内科校医の先生より指導があった人に、結果をお知らせしました。
何も通知のなかった人は「異常なし」です。

●歯科検診の結果をお知らせしました。

むし歯の状態を理解しよう！

こんなふうに進じます。

〈C1〉



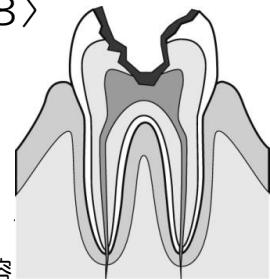
むし歯のつくる酸で、エナメル質が溶けています。
まだ痛みはありません。
この段階だと、治療は簡単です。

〈C2〉



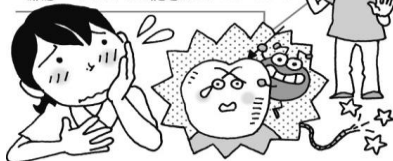
象牙質まで溶けています。
冷たいものや、熱いものがしみる程度です。
まだ短期間の治療で済みます。

〈C3〉



溶けすぎて、
だまっても痛いなどの症状がでます。
神経の処置など、治療に時間がかかります。

痛くなる前にGO!



むし歯は、自然に治ることはありません。
今回の通知でむし歯があった人は、できるだけ早く受診しましょう。

学校歯科医の先生より



- ・卒業後は時間がとりにくくなります。地域によっては医療費の助成もあります。高校生のうちに受診してもらいたいです。
- ・去年からむし歯や歯肉炎が改善されておらず、悪化している人がみられます。
- ・歯科矯正には色々な方法があります。頭痛などの症状が出る前に、成長期のうちに、早めに受診し、歯科医と相談してほしいです。

熱中症のリスクが高くなるのは、こんなときです

気象条件

- ◆暑くなりはじめの時期
- ◆急に暑くなった日
- ◆熱帯夜（最低気温25℃以上の夜）の翌日



体が急な暑さに対応できず、体温調節がうまくできないため、熱中症になりやすいのです。



体調

- ◆食事をきちんととっていないとき
- ◆かぜや下痢の後
- ◆睡眠不足のとき



食事や睡眠が不十分で体力が低下しているときや、かぜや下痢の後で脱水状態になっているときは、熱中症のリスクが高まります。



環境

- ◆気温が高い
- ◆湿度が高い
- ◆日ざしが強い
- ◆風が弱い



炎天下だけでなく、室内でも熱中症は起こります。特に、体育館を閉めきって行なう部活動の練習では、こまめな水分補給と体調の観察が大切です。



これは熱中症の始まりです

- 手足のしびれ
- めまい、立ちくらみ
- こむら返り
- 気分が悪い、ポーツとする



涼しい場所で休憩をとり、水分や塩分を補給しましょう。水分は、本人が自分で持って飲むようにしましょう。

さらに症状が進むと...

冷夏は、熱中症になりにくい？



冷夏でも、熱中症は起こります。体が暑さに慣れにくいので、さほど気温が低くなくとも発生するのが特徴です。

水分補給は、のどが湿ってからがいい？



のどが湿いたと感じたときには、体の水分の2%が既に失われています。渴く前に水分補給をするのが大切です。

衣服の色や形は、関係ない？



黒っぽい服は、熱を集めやすく、熱中症のリスクを高めます。体の熱や汗をすばやく逃がすためには、ゆとりのある服がおすすめです。

- 頭がガンガンと痛む
- 吐き気・吐く
- 受け答えがおかしい



太い血管のある首やわきの下、足の付け根を冷やしましょう。症状がよくならないときは、救急車を!!